

令和元（2019）年度

自己評価結果公表シート

社会福祉法人 真和会
幼保連携型認定こども園 菜の花こども園

1. こども園に移行した背景等

○1978（昭和53）年4月から2015（平成27）年3月まで仲沖保育園（認可保育園）として運営して参りました。

○昨今の子育てを取り巻く環境の変化から、地域子育て支援の重要性を強く意識し、園舎立て替え（平成18年完成）においては、地域に開かれた施設を目指し、子育て相談スペースや子育て支援の多目的ルームを整備したところです。

○園は諫早市の中央地区の交通の便が良い所に位置するため、市内各地からの入園が容易な場所となっています。園の周辺は、田畑、小川、河川の土手、公園、小学校、商業施設など、子どもの豊かな育ちに有益な社会資源に囲まれています。特に自然に恵まれた環境は、力強く生きる力の育成に適していると考えます。

○平成26年7月の諫早市の推計によれば、0～5歳の人口は、平成31年7,006人とされていて、平成25年7,545人から539人の減少予測となっています。

○教育・保育施設の利用ニーズを見てみると、平成26年は、幼稚園の利用定員2,245人に対する利用者は1,245人、保育園の利用定員3,434人に対する利用者は3,597人となっていることから諫早市においては、幼稚園利用よりも保育園利用希望が多いという現状があります。平成25年11月に諫早市が実施した「諫早市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の結果でも令和元年の教育・保育の見込み量はそれぞれ、1,192人、3,747人となっており、保育園利用の希望が多いことが伺えます。

○保育園利用者においては、保育園における児童福祉のみならず、教育（いわゆる学校教育）の実施への期待も年々高まってきているのが現状としてあることから、認定こども園がもつ学校教育と児童福祉の機能へのニーズは今後より高まることが想定されます。

○就労以外の理由による入所希望、地域子育て支援の期待が増えている現状もあり、保育所機能と幼稚園機能を併せ持つ施設が必要であると考えます。

以上のことを踏まえ、真に地域に必要とされる教育・保育を実践していくことを目指し、幼保連携型認定こども園を設立しました。

2. 教育及び保育の目標や理念

乳幼児期における教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ人格形成の基礎を培う重要なものです。本園における教育及び保育は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての教育並びに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与え、心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援することにより、家庭や地域での生活を含め、乳幼児の生活全体が豊かなものとしていくことを目指しています。

また、年々増加している特別な配慮を必要とする子どもの支援、小学校における教育との連携、食育の推進はさらに質の高い取り組みが必要であると考えます。

3. 教育及び保育のねらい及び内容

- ・園生活を通して、生きる力の基礎を育成し、子どもの最善の利益を考慮しながら保護者ととともに園児を心身ともに健やかに育成する。
- ・園児一人一人が安心感と信頼感を持っていろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする。
- ・園児の主体的な活動を促し、乳幼児にふさわしい生活が展開されるようにする。
- ・遊びを通しての指導を中心として、教育が総合的に達成できるようにし、園児一人一人の特性や発達の過程に即した指導を行います。

4. 重点的に取り組む目標

これまでの保育園時代の経験に甘んじることなく、認定こども園第4年目として職種、職員が一つのチームであることを意識して、保育・教育の充実に主体的に取り組みました。

5. 評価項目別の達成および課題状況

項目	評価・課題
本園の保育・教育目標の認識度	「教育」についての考え方について園内研修等を積極的に行い、意見交換により課題等の共有ができた。幼児教育のカリキュラムも作成することができたことは、これまでの成果として捉えている。 さらに具体的な実施方法について園全体で考えていくことが必要である。

項目	評価・課題
乳児・幼児・延長保育教諭間の連携	園内研修の効果もあり、職員の意識は高まってきている。意見交換しながら学びの場をつくっている様子がうかがえる。 担任と延長保育教諭との申し送りに課題がないよう、報連相を徹底させる。
各職種間の連携	保育と調理部門の調整の難しさが改善し、お互いの立場を理解し連携することができるようになってきている。 クッキングの行事の計画から実施にいたるまでの連携の課題も解消している。
保育・教育内容	「心を育てる」「学びは遊びから」をモットーに子どもと接することを全員が心掛けている。 現場発信を重視し、様々な意見交換を行い、「子どもにとってよい環境とは何か」を中心に据えて教育・保育の内容について検討、実施、検証の繰り返しが必要。 2018年度から英語教育を導入した。
研修	園内研修の機会を定期にもつことで、職員の自己の課題、担当現場の課題、園全体に対する課題点を認識する職員が増えた。 園内研修の有効性を確認している。 パート職員の研修参加も増やすことができた。
安全への取り組み	月1回各種の避難訓練を行いながら改善点を共有することに不十分な点がある。本番をいかに想定し訓練するが重要である。 不審者対策について更なる意識改革、具体的な実施が必要。
特別支援教育	職員の学習や経験が必要。さらに専門家の定期的な関わり、連携の必要性を感じている。
保護者との連携	誕生会への参加、保育参観ウィークの設定、1年間の製作展示の開催など、実際の保育・教育の様子を見て頂くことで園の方針等の理解を深めていただくための環境づくりを行った。保護者会からの提案を丁寧に検討し、次年度計画に反映した。

項目	評価・課題
地域子育て支援	<p>リトミックを毎週定期的に行う取り組みとベビーマッサージに力を入れた。</p> <p>園庭開放や同年齢児クラスの活動参加など好評いただいた。内容や回数の見直し検討。</p>
幼小連携	<p>小学校との連携の内容が年々充実しつつある。</p> <p>定期的な学校教諭等とのミーティングを行う</p> <p>双方の教諭が見学、意見交換することを継続的に行いたい。</p>
取り組むべき具体的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・『食育』の重要性－食事環境、食事のマナー、食の楽しみを感じさせる工夫。 ・『遊び』の環境づくり－遊びの質を高めること、遊びの内容を充実させる。次年度は手作りおもちゃを重要視してみる。 ・会議、園内研修の充実度を高める。特に特別支援に関する学習の充実について。
総評	<p>計画に基づいた教育・保育の必要性について職員会議等を通じて、また、職員間で認識を高める働きかけが広がってきていることが評価できる点である。</p> <p>園児や保護者、地域の子育て支援を必要とする世帯に必要とされるサービスの充実を図るため、計画を立て、実行し、反省し、計画を見直していく過程が園全体で重要なことであることについての認識も高まっている。しかしながら、幼児の教育・保育に携わる集団としては、『気づきの力』を身に付ける習慣づくりが園全体として求められるものと考えている。</p>

令和2年2月20日

諫早市仲沖町543番地2
 社会福祉法人 真和会
 菜の花こども園 園長 土井淳一